

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100859		
法人名	有限会社ほほえみの里		
事業所名	グループホームほほえみの里	ユニット名	ひまわり館
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰甲697-5		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokansaku.jp/45/index_nhp?action_kouhyou_detail_2015_022_kanitrue&lievosvoCd=4572100859-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな山間の中に位置し、虫や鳥のさえずり、自然の草花に触れ季節を感じることができる。庭には畑があり、ご利用者が自由に野菜を植えたり収穫したりすることができる。近隣との繋がりも深く、グラウンドゴルフなどの地域行事に参加したり、逆にホームでのイベントに参加していただくなどの関係を築いている。今後は、これまでの経験を活かし、より多くの地域の方に認知症の理解を深めていただけるような働きかけをおこなう。開設から十年が経過したものの課題は多く、あらためて職員の処遇改善、業務見直しなどをおこない職員の定着に向けて取り組み始めたところである。また、グループホームで暮らすご利用者は主人公であり、職員はあくまでご利用者を陰で支える黒子であることを周知し、ご利用者中心の暮らしが当たり前となるよう努力を続けていく。理念に掲げられているように、ご利用者の「貴方らしい生活」の実現を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣住民の訪問や野菜などの差し入れがあり、利用者が近くの畑の手伝いやみかん狩りに行くなど地域との関係を大切にしているホームである。区に加入はしていないが、管理者が区の班長会に出席したり、回覧板を回してもらうなど、相互に情報を交換できる関係を構築している。また、ホームの行事に近隣住民の参加があり、利用者も地域の行事に出席して交流している。施設長と副施設長は、利用者が自己選択のできる、利用者主体のホームの構築を目指して、職員の意識改革や業務改善に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会の中で理念の内容や意味について話しを聞く機会があったものの、職員それぞれの解釈が違っており実践できてはいない。また、職員の入れ替りが多く理念が浸透しない。理念に掲げてあるように「貴方らしい生活の支援」が必要である。	管理者は職員と接遇や地域密着型サービスの理念について話し合っているが、職員は理念の本質を十分に理解できていない。		利用者が当たり前に自己選択ができ、職員主体ではなく利用者主体となるよう理念を共有し、日々の支援に生かすことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グラウンドゴルフ大会や祭り・季節の行事など、地域と施設双方での交流がある。近隣の方が新鮮な野菜を届けに立ち寄ることや、相談事があり尋ねて来られることもある。	現在、区には加入していないが、班長会への出席や回覧板等で情報交換がなされている。地域行事やホーム行事に相互に出席し交流の機会を持っている。クリスマス会に地域の方やボランティア、家族など、60名の出席があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区の班長会に参加し、地域に住む高齢者などの暮らしに役立つことはないか、貢献できることはないかを話す機会がある。今後は、地域住民を含めた認知症サポーター養成講座等の計画を予定している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見は、会議録として職員に周知し、内容に応じて取り組みをおこなない、その経過や結果を次の会議で報告している。会議では施設の困り事や悩みもオープンにし一緒に考えていただける貴重な時間となっている。	ホームの現状報告だけでなく、出席者から活発な意見や提案が出されている。出された提案はできることから取り組み、駐在所に協力依頼を行うことで、協力関係を確立している。また、区の回覧板の回覧や班長会出席案内があり、実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に電話や訪問による問い合わせや相談をおこなっている。施設が直面している課題については、推進会議の中で相談や報告を随時おこなっている。	市の担当者とはいつでも相談できる関係にあり、密に連携し、協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段、何気なくおこなっているケアの中で、職員の言動や行動にも拘束に当たると思われるような場面があり、その都度注意をおこなっている。これまで身体拘束をおこなったケースはなく、今後も身体拘束をしないケアの実践を継続する。	職員は身体的拘束については一定の理解があるが、言葉による拘束については、十分な理解が得られていない。昨年度から身体拘束についての研修会が実施されておらず、今後は事業計画を作成し、勉強会を実施していく予定である。		職員が拘束について十分理解できるよう勉強会や研修会を実施し、拘束をしないケアの実践に取り組むよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回程度ではあるが、研修会の参加により学ぶ機会があり、報告書により職員に周知している。虐待につながるような言動や行動に対して、その都度注意を促している。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加により学ぶ機会があり、内容については報告書により職員に周知している。これまで制度を利用したケースはないが、制度の活用が必要と考えられる利用者に対しては、関係機関への橋渡しができるよう支援をおこなう。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容が分かりづらく、料金について曖昧な記載があった為、契約書の変更をおこなっている。契約書に沿って十分な説明や理解が得られるよう改善が必要。契約の締結・解約時には十分な説明をおこない不安の軽減に努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置がされていたが特に活用はされていなかった。今回、新たに意見箱を設置した為今後活用していきたい。家族会もなく、全体に意見を求めることはできないが、電話や来訪時に直接意見を求め運営に反映させるよう努力している。	家族会はないが、電話や来訪の機会を利用し、出された意見を記録している。また、管理者が家族を訪問して話し合ったり、運営推進会議でも意見が出されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会をおこない職員の意見を聞く機会がある。職員からの意見について改善できることについては早急に対応し結果を報告している。また、意見箱を設置したことにより、職員の意見や提案を聞く機会を増やすことで運営や管理に役立てたい。	職員も意見や提案を提出できるよう、意見箱と用紙を新たに作成している。管理者は、職員から意見や提案を積極的に出してもらえよう信頼関係の構築に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は常に就業環境の整備に向けた話し合いを繰り返しており、特に職員処遇への反映については検討を続けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度に合わせた研修内容を選択し、研修への参加を促している。職員体制の問題もあり、すべての職員に対し計画的な研修の確保はできていない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域ケア会議やお船出会議等により毎月交流の機会を持つことができる。普段から、事業所間を行き来し相談事や悩みの解消ができる関係作りをおこなっている。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入以前から数回訪問し顔馴染みの関係作りを心掛けている。訪問し顔を合わせ何気ない会話を重ねることで不安の解消に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問を重ね会話することによって、これまで抱えてこられた悩みや不安・サービス導入における要望を聞く機会を確保している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の希望や要望のみならず、アセスメントにより抽出された課題を基に、必要に応じて他のサービス利用について調整をおこなっている(福祉用具利用等)。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務優先の流れが根強く残っている為、ご利用者とともに過ごす時間をもつことができていない。グループホームとは？という基本的なところから学ぶ機会を増やし「介護する側、される側」といった縦の関係を脱することを目指している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来訪時を利用して近況報告をおこない、一緒に考えたり意見交換をおこなう機会をもつことができる。ご家族の協力なくして支援していくことは困難であり共に本人を支えていく関係作りを心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪はあるが、こちらから出掛けて行き関係を保つような働きかけはおこなえていない。入居してから月日が経ち、今の暮らしに馴染んでいる為新たな支援が困難でもある。サービス導入時からの働きかけが必要。	これまで日常的な外出の機会が少なく、なじみの人や場との関係継続がなされていなかったが、家族の協力で外出する機会を確保している。今後は外出を支援し、また、担当者から家族宛のホーム便りを出す予定である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、それぞれの関係が保たれており様々な関わりを持っている。会話のキャッチボールができないような時には、さりげなく間に入り会話を取り持つよう支援をおこなっている。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後には、転居先に訪問し面会することで退居後の様子を確認。担当者へ、環境の変化による影響の有無などの確認をおこなっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉に表出できない思いや願いを汲み取り、本人の意向に近づくことが出来るよう努めている。意向の把握が不十分な場合には、職員やご家族にあらためて意見を求め情報収集をおこなっている。	業務優先になっており、利用者は本人の思いや意向を十分に表出できていない。職員主体で、利用者本人の選択の機会が少ない。		利用者本人本位での意思が表出されるような働きかけを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報が浅く、生活歴や馴染みの暮らしの把握ができていない。ご家族の面会時に聞き取りをおこなったり、日常会話の中から情報を収集し把握することに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当制とし、職員それぞれが担当しているご利用者の把握に努めているが、問題点ばかりが浮上してしまいがちである。「できること」「わかること」探しの定着に向けて努力が必要。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントによって抽出された課題が、環境や職員体制に問題があり現状に即していない場合がある。職員全員が個別支援、自立支援に向けた取り組みや考え方を統一することにより、利用者本位の介護計画につなげたい。	家族訪問を行い意見を聞いている。担当制であるが、職員一人ひとりが介護計画について理解し、介護計画に即した介護を実践できているかが不十分である。記録様式を変更し、新たな取組を行っている。		利用者本位の介護計画を作成し、介護計画に即した介護実践を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題点ばかりが取り上げられ、アイデアや気付きについての記録が記入されておらず、介護計画の見直しには活かされてはいない。記録の整備について取り組み始めたばかりであり、勉強会等を重ね改善が必要。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化によって、環境や体制上柔軟な対応が困難である場合には、現状のニーズに対応できるいくつかのサービスを提案し選択できるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議により、地域包括支援センター・民生委員・地区代表者などと協働している。また、行事の際にはボランティアが来訪。現在も毎月の地域ケア会議を通して、地域資源の収集をおこなっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認をおこない、かかりつけ医への受診を継続するか協力医療機関への変更をされるかについては本人とご家族に委ねている。変更される際に、紹介状の依頼をするなど必要な支援をおこなっている。	かかりつけ医の受診は有料で理事長が行っており、ホームとしては協力医への情報提供や家族への報告を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内には看護職として業務をおこなっている職員はおらず、受診付き添いの際に直接報告をおこなっている。必要時には情報提供書を提出し報告をおこなったり、医療連携室の担当看護師へ直接電話による問い合わせをおこなっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には数日に一度訪問し面会をおこない実際の状態を確認。病棟看護師との情報交換をおこない退院時期について話し合いをおこない、スムーズな退院への支援をおこなっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護についての説明書や終末期の対応について整備はされているが現状に即した支援内容を検討し新たに作成する必要がある。	入居時に、重度化や終末期について本人や家族と話し合い、記録に残している。現在、協力医や訪問看護、職員の体制が整っていないため看取りには至っていないが、ホームでできることを伝え、不安を取り除く支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが定期的な訓練はおこなっていない。定期的な訓練を計画し、急変や事故発生時に慌てず行動できるような技術の習得を目指す。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区消防団の協力を得られ訓練をおこなっている。災害用備蓄の確保が不十分である為、整備する必要がある。	区長から地域住民を含めた避難訓練の提案があり、12月に地元消防団員が参加し夜間想定訓練を実施している。地域の避難場所になっているが、備蓄が十分ではない。駐在所の協力も得られようになった。	食材だけではなく、災害用の備蓄製品の確保を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり館	外部評価		
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会で、言葉遣いやプライバシーについて注意を促してきたが対応が不十分。勉強会を通し、具体的な学びをおこなう。	トイレ介助がオープンになっていたため、情報や資料を提供し、一人ひとりの尊重やプライバシーの確保について職員の意識と体制の改革に努めているが十分ではない。	利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーが確保された対応を期待したい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が日常的に選択し自己決定できるような場面作りは少ない。自己決定することが特別なことではなく当たり前であることを認識し支援していけるよう努める。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先の流れが根強く、ご利用者のペースに合わせた柔軟な支援をおこなうことができない。業務内容の見直し・改善に取り組み中である。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては普段から気を付けて支援しているが、好みの服・好みの髪型などの選択をすることができない。職員目線ではなく、本人の好みの選択ができるよう支援する必要がある。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とご利用者が共に食事ができるように取り組んでいる。これまでの経緯もあり、一緒に食事の準備や後片付けをする機会をもつことができていない。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表により食事摂取量を確認できる。食事が減少傾向にある方には捕食をすすめ食事量の確保に努めている。水分補給については定期的ではなく、飲みたい時に自由に飲めるような工夫をおこなう。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一方的な誘導や介助に対する見直しをおこない、状況に合わせた口腔ケアができるようすすめている。				

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用を減らすことには努めているが自立支援に向けたトイレ誘導は不十分。時間を気にせずゆっくりと用を足せる環境作りや工夫をおこなう。	一人ひとりの排尿パターンに考慮してトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表により排便状況を確認することができ、状況に応じて飲み物の工夫をおこなっている。トイレにゆっくりと座る時間の確保を含めた支援が必要。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日おこなっているが、曜日毎に入浴者が決められている。個々の希望に沿えるような柔軟な支援ができるよう改善を続けていく。	業務パターンによりその日の入浴者が決められており、希望に沿った入浴支援がなされていない。	受診時や希望に沿って、柔軟に入浴支援を行うことを期待したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自由に居室でくつろげる時間の確保が不十分。夜間は、それぞれの睡眠パターンに合わせた支援がおこなわれておらず、眠剤の内服時間を調整したり好みの場所で睡眠の確保が得られるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理・服薬介助により飲み忘れや誤薬がないように注意している。薬包には、全職員が分かるよう名前や日付・食前や食後・朝昼夕の表示をおこなっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援ができていのは一部のご利用者にとどまっている。入居時の情報が浅く、生活歴や楽しみごとの把握が不十分である為、情報収集をしながら楽しみごとの支援につなげたい。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診以外で日常的に外出ができるような個別の支援は十分におこなえていない。ご家族との外出が可能な方は一部のみ。地域の行事に参加することで外出の機会を持つことはできるが、今後は、希望に添った外出支援の機会を増やしていきたい。	業務優先で日常的な外出支援は行われていないが、地域行事への参加や敷地内の散歩は行っている。車椅子利用者のために敷地内から道路にコンクリートで道を作り、車椅子が通れるようになっている。午後2時過ぎにはパジャマに着替えているので、外出が難しい。	外出支援が可能な日中の職員配置になっているので、個々の職員が業務に縛られることなく柔軟に業務を見直し、外出支援ができるよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者がお金を自分で所持しているケースがないが、今後は、外出支援をおこなう際にお金の使用が可能となるようご家族にも了解を求める。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が自由に使える場所に設置されておらず、掛ける介助もおこなえていない。毎年、年賀状を作成しハガキを送る支援はおこなっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度調整などに配慮している。壁の飾りや花瓶に挿した花によって季節を感じられるよう工夫している。		共用空間には季節の飾りがなされており、ゆっくり過ごせるようテーブルやソファを配置している。空調設備がリビングだけになされていたが、来春には居室にも設置予定で、温度や湿度の調整が改善される予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが共用スペースになっており、その時々の状況によってソファやテーブルの配置を変え、過ごしやすい環境作りに努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた物や馴染みのある物をそのまま持参してきてもらうように伝えられている。ご利用者の居室が居心地良い環境となるよう工夫が必要。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子のご利用者でも洗濯物が干せるような物干し竿を使用したり、肘掛け椅子を使用するなど、一部ではあるが自立支援に向けた取り組みを始めている。			